

平成 30 年 1 月 25 日

## サイエンス・ダイアログ 実施報告書

1. 学校名・担当者氏名: 長野県諏訪清陵高等学校 伊藤 泰

2. 講師氏名: MAJHI, P. K.

3. 同行者氏名: 笹森 貴裕

4. 実施日時: 平成 30年 1月 19日 (金) 15:50 ~ 17:20

5. 参加生徒: 2 年生 20 人、 1 年生 0 人、 0 年生 0 人 (合計 20 人)

備考: SSH 課題探究コース および 希望者

6. 講演題目: From Waste to Wealth: The Chemistry of Gaseous Waste

7. 講演概要:

インドの紹介。研究経歴。

典型元素の化合物によって、触媒等、様々な化学的性質を作り出すことの意義。

英語を使いこなせるようになることの大切さについて。

8. 使用言語: 英語

9. 講演形式:

(1) 講演時間 60 分 質疑応答時間 30 分

(2) 講演方法 (例: プロジェクター使用による講演、実験・実習の有無など)

電子黒板(パワーポイント)および黒板使用の講義のみ

(3) 通訳 (例: 同行者によるサポート、外国人研究者本人による日本語説明)

化学的な内容についての補足(化学の内容ではなく、英語がよくわからなかったのですが)

(4) 事前学習時使用教材(事前学習を行った場合のみ)

講師より送っていただいた講義概要の英文

10. その他特筆すべき事項:

1回目より2回目の方が、生徒の慣れもあって活発な質疑応答ができたので、3回目の今回さらに期待していたのだが、比較的低調に終わってしまった。インド英語は、初めての経験であり、発音やアクセントの違いによって生徒たちには聞き取りづらかったようである。また、内容についても科学的(化学的)内容が薄く、科学的(科学的)興味が湧きにくかったようにも思える。化学を学習している生徒たちであり、高校化学の少し上をいく内容で引きつけて欲しかった。